

令和7年度

(第36回)

農業振興功績者表彰

令和8年3月20日

公益財団法人 農業振興会館

令和7年度
農業振興功績者表彰
受賞者

農業振興功績大賞

平 群 町 辻 本 忠 雄

農業振興功績賞

大和郡山市 乾 庸 介

明日香村 一般社団法人
飛鳥ケイミュー橘の里

農業振興功績大賞

奈良のイチゴを全国区へ スマート農業導入により古都華生産をけん引

つじもと ただお

辻本 忠雄

平群町

平成 9年 就農
平成14～23年 平群町農業委員
平成23～29年、令和5年～ 農業委員会会長
平成30年 奈良県農業賞
平成30年 株式会社 辻本農園 設立
令和 3年 日本農業賞 農林水産大臣表彰



□県内トップレベルのイチゴ栽培・販売

- ・経営面積 182a ハウス約40棟
- ・従業員 常時12名 季節パート9名
- ・年間生産量 約55t
- ・主力品種 古都華 淡雪
- ・販売先 道の駅「大和路めぐり」
市場出荷（大阪、京都、奈良）、海外
- ・第1回全国いちご選手権銅賞（令和5年）
- ・輸出に対応した登録農薬使用



□県育成品種「古都華」との出会い

アスカルビーに次ぐ新品種を
奈良県農業研究開発センターで開発
平成14年 交配開始
平成18年 現地適応検定
※現地試験栽培に協力 → 高設栽培
品種開発者（県農業研究開発センター）と連携
平成21年 古都華命名
平成23年 品種登録
**平成23年 平群莓研究会設立により
町内の生産者を取りまとめる**
→日本一の小菊(夏秋期)と並ぶイチゴ産地となった



古都華

古都華を広めた第1人者

□平群ブランドの確立 道の駅「大和路へぐり」と連携し加工販売

- ・平群町の古都華生産量は県内最大
- ・「道の駅大和路へぐり 未来プロジェクト」に協力 古都華のブランド化に貢献
- ・生産・加工・流通の確立
- ・(株)辻本農園の古都華は平群ブランド第1号



□スマート農業の導入



- ・全てのハウスで高施設導入
- ・自動開閉装置による温度管理
- ・日射センサーと連動した給液装置により一括管理
- ・自動ラップ機の導入により作業効率化



自動ラップ機の導入

□雇用の創出と新規就農支援

- ・小菊農家と連携したリレー雇用（パート雇用の確保）
- ・外国人技能実習生の雇用
- ・県指導農業士として後継者育成
辻本氏を師と仰ぐ古都華新規生産者が
県内各地で就農（平群、生駒、葛城、田原本）

□地域貢献

- ・二度目の農業委員会会長就任
- ・県営畑地帯総合整備事業 上庄・梨本地区
(株)辻本農園は上庄梨本イチゴ生産者組合の副組合長として地域のとりまとめ

県営畑地帯総合整備事業
上庄・梨本地区概要

事業内容 受益面積約20ha
用排水路工 3路線
農道整備 2.4km
ほ場整備 1.6ha
ハウス整備 1式
総事業費 8.3億円
事業期間 R5～R9

□今後の目標

- ・さらに手間をかけイチゴの高品質、高付加価値化
- ・イチゴ農家後継者育成、新規就農に必要な農地確保が課題
- ・外国人労働者を含む年間雇用確保のため新たな作物導入

農業振興功績賞

奈良県農業青年組織のリーダー 4Hクラブを通じた交流活動

いぬい ようすけ

乾 庸介

大和郡山市

平成20年 就農
令和5年 奈良県4Hクラブ連絡協議会会長
近畿農業青年クラブ連絡協議会会計
令和6年 奈良県農業青年組織リーダー表彰
令和7年 奈良県4Hクラブ連絡協議会
結成70周年記念式典実行委員長



□ 営農の状況

- ・イチゴ（古都華、あすカルビー、ゆめのか、かおり野）、夏秋ナス、米
- ・耕作面積 85a
- ※祖母(87歳)を農業の師と仰ぎ「おばあちゃんと二人三脚」を信条として日々研究、技術向上に努め、栽培面積を拡大



□ 市内小学校での「食育活動」

- ・市内の小学校、農業体験授業による「食育活動」



□ 後継者育成についての活動

- ・N A F I Cで奈良県4Hクラブ連絡協議会の特別授業を毎年実施

□ 地元特産品の消費拡大と新たな商品開発

- ・「古都華」を市のふるさと納税返礼品に提供
- ・クラフトビール工房と協力して「いちごビール」を開発



□ 青年農業者組織である4Hクラブでの活動

- ・ 奈良県4Hクラブ連絡協議会会長、同協議会顧問、近畿農業青年クラブ連絡協議会会計、奈良県4Hクラブ連絡協議会結成70周年記念式典実行委員長などの要職を歴任
- ・ 青年農業者同士の交流や青年農業組織への積極的な参加とともに、青年農業者のまとめ役として尽力
- ・ 地域のお祭りやイベント等にも積極的に4Hクラブ員と参加し、運営等に協力している。



※ 4Hクラブとは

将来の日本の農業を支える20～30代の若い農業者が中心となって組織され、農業経営、技術の解決方法を検討するプロジェクト活動のほか、消費者や他クラブとの交流、地域ボランティア活動を行っている。
全国に約630クラブ、約9,000人のクラブ員が活動。

奈良県4Hクラブ連絡協議会結成70周年記念式典

- ◆ 令和8年2月12日(木)奈良ロイヤルホテルで開催
- ◆ 同協議会は県内の各地域の「4Hクラブ」が構成員(124名)
- ◆ 乾氏は**結成70周年式典の実行委員長**を務める。

□ 今後の目標

4Hクラブの交流、活動を通じて農業に従事する仲間(青年農業者)を増やし、地域農業と農地の保全に寄与
学校給食への地元野菜の提供や農業体験授業を通じて子ども達への「食育活動」を推進

地域活動や土地改良への参画も非常に熱心で、
奈良県農業の将来の農業農村の若手リーダーとして期待

大和の国発祥の飛鳥の地で 村花「橘」で地域活性化 CSR(Corporate Social Responsibility)から農村振興へ企業参入

一般社団法人 飛鳥ケイミュー橘の里 明日香村



ケイミュー株式会社

- ・2003年12月設立
- ・クボタとパナソニックの外装建材事業を統合した企業
- ・本社：大阪府中央区
- ・資本金：80億円
- ・社員数：約1800人
- ・大和郡山市にテクノセンター設置

□農村振興への企業参入

- ・ケイミュー株式会社設立10周年を機に奈良でのCSR活動を計画
- ・平成27年2月、県、明日香村と連携協定締結一般社団法人を設立し、活動開始
- ・大和の国発祥の地で村花となっている橘を利用



□大和橘とは

- ・古くから日本に自生していた“日本固有の柑橘”
- ・古事記の由来から「右近の橘・左近の桜」として京都御所に植栽
- ・文化勲章の意匠に橘の花を使用
- ・生産量が少なく絶滅危惧種に指定されている



□耕作放棄地活用

高松塚古墳に隣接する耕作放棄地、古都買入地を活用し景観保全

□大和橘植栽

日本最古の柑橘である「大和橘」を飛鳥の地で栽培

栽培面積	65a
収穫量	2.2t



耕作放棄地活用

□農福連携

社会福祉法人へ農園作業の一部を委託
障がいのある方へ就労の機会を提供



社会福祉法人と連携

□橘ブランド育成

村、パートナー企業と連携し、
商品開発を通じて地域活性化
ブランド力向上に寄与



かき氷シロップ
(ほうせき箱)



コスメ材
(クラブコスメチックス)



リキュール酒
(油長酒造)



大和橘おろしポン酢
(日本果汁)

□循環型活動



□今後の目標

長期にわたり社会貢献活動を継続するため、理念に賛同するパートナー企業との連携を広げる。
橘を地域特産品として全国に浸透させる。
イベントなどの開催、明日香村や地元の参画を広げ、さらなる地域活性化を図る。